

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



「新聞の価値再認識する大会に」

実行委員会が発足 概要と予算案を承認

7月31日、8月1日に神戸市で開催する「第30回NIE全国大会神戸大会」の実行委員会の初会合が4月23日、神戸市中央区で開かれた。芥川賞作家小川洋子さんの記念講演や、ジャーナリスト池上彰さんらによるパネル討議などの大会概要と、予算案を承認した。

実行委員長竹内弘明兵庫県NIE推進協議会会長は「フェイクニュースなど課題が多いSNS(交流サイト)に比べ、新聞はファクトチェックを行い、ニュースを価値判断し、報道倫理に基づき発信している。大会によって改めて新聞の価値を再認識していただきたい」とあいさつした。

神戸大会は日本新聞協会の主催。神戸新聞社、県NIE推進協議会が主管を務める。

実行委員は、兵庫県教育委員会の藤原俊平教育長、神戸市教育委員会の福本靖教育長、日本新聞協会の内田雄一新聞教育文化部長のほか、教育関係者、県内に拠点を置く新聞・通信社8社の



NIE 全国大会神戸大会の概要や予算案を協議した実行委員会 = 神戸市内

30人で構成する。

神戸大会は、7月31日は神戸ポートピアホテル(神戸市中央区)、8月1日は甲南大学岡本キャンパス(神戸市東灘区)で開く。スローガンは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」。

初日のパネル討議では、「情報で、いのちを守る」をテーマに、池上さんが司会を務め、ジャーナリストの古田大輔さん、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授の阪本真由美さん、西宮市立浜脇中学校主幹教諭の渋谷仁崇さん、神戸新聞社論説副委員長の長沼隆之さんが議論を深める。指揮者佐渡裕さんとスーパーキッズ・オーケストラの演奏もある。

初日の会場には、阪神・淡路大震災関連のパネルを展示するほか、「学校向けデジタルサービス展示・紹介コーナー」を設ける。

2日目は分科会で、県内の小中学校、高校などが四つの公開授業、22の実践発表を行う。公開授業は、甲南小学校、姫路市立豊富小中学校(前期課程)、浜脇中学校、兵庫県立神戸甲北高校が取り組む。

特別分科会では、流通科学大学と兵庫教育大学の教員と、神戸市職員研修所の職員が「社会人、大学とNIE」をテーマに意見を交わす。ポスター発表や、「はがき新聞」作りのワークショップもある。

神戸大会特設サイトは5月上旬に開設し、参加申し込みは5月下旬から受け付ける予定。(NIE 神戸大会事務局 網 麻子)

神戸をイメージ、ロゴマーク決定

NIE 神戸大会のロゴマークが決まった。神戸・北野の異人館「風見鶏の館」や六甲山、街並み、港をデザイン。山の緑、海の青で彩り、「NIE」の文字は神戸ポートタワーの赤とシルエットを配した。今号から題字横に掲載しています。

ポスター発表、児童生徒の作品も参加校・団体 60 超に

ポスター発表は、全国各地の学校・団体がNIE 実践例を紹介するほか、児童生徒が作成するポスターも並ぶ。参加する全国各地の学校・団体は60を超えた。

発表者がポスターそばで説明するセッションにこだわらず、紹介動画や説明資料を添えるだけでもOK。さらに、教員らによるNIE 活動にとどまらず、児童生徒が手掛ける壁新聞なども展示することにした。

一例を紹介すると一。新潟県新発田(しばた)市立東小学校5年の大竹葵さんは昨年、地域防災の担い手となる防災士の資格試験に合格。「県内最年少の防災士」として地元の新潟日報で紹介された。大竹さんによると、新聞記事になったことで、県外の小学生防災士とつながることができたという。

児童が「新聞から広がった防災の輪」をポスターにまとめる。阪神・淡路大震災30年の年に開くNIE 神戸大会にふさわしい取り組みの一つだろう。作品が届くのが待ち遠しい。

このほかのポスターでは、日本新聞協会の関口修司・NIE コーディネーターに、朝の時間などに継続して新聞を読む「NIE タイム」を紹介してもらう。兵庫県内のユニークな取り組みでは、製作した「まわしよみ新聞」から着想を得て劇を演じる(尼崎市の劇場ピッコロシアター)などがある。

(兵庫県 NIE 推進協議会事務局長 三好正文)

神戸新聞 2025年04月25日 金曜日 面名 教育1 13 17ページ

なおみ先生の NIE 教室



「読書というのは、ひとりですべて唯一みじめでない行為です」「ひとりで本を読んでいる人は本当にカッコいい」と作家の林真理子さん。ルノワール、モネ、フラゴナールは読書する人を名画に描いています。大学時代、図書館ホールの新聞台で新聞を読む先輩の、逆光に浮かぶシルエットも美しかった。

そんなカッコいい人が集う甲南小学校図書館には、天井まで届く書棚、半円形のお話会スペースがあって本の森にいるよう。そこでは3年生のNIE授業が行われていました。

◎ 学校図書館へ行こう

児童は気になる記事を紙に貼り、分からない言葉が出てくると図書館の本で調べて記事の内容、選んだ理由、感想を書いて発表します。お薦め記事を紹介し合うシンプルバトルは、読む量が少ないので記事の内容を全員が理解した上で発表を聞けます。

次の時間に発表の中から各自が推したいものを選び、自分でも記事をまとめ、友達の意見のいいところ、疑問に思ったところを書いて発表します。シンプルバトルの上に行く「推シンプルバトル」。友達の意見を踏まえているので考えは深まり、批判的思考が身に付きます。担当の田代弘子先生は「児童た

ちはお城の入場料値上げ、白髪は抜くと増えるかなど興味のある記事を探し、図書館の本や辞書で調べて発表します。教科や学年を超えてNIE活動を楽しんでいます」と癒やしの笑顔。時はまさにこどもの読書週間。図書館へGO。(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第4金曜に掲載。

よしだ・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内公立高校国語教諭、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

お薦め記事、本で調べて紹介

2025年4月25日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました